

表現の自由どう考える

岐阜 ぎふ平和美術展 記念シンポジウム

ジャンルを超え、平和を願う芸術作品が集まる「ぎふ平和美術展」の開催五十回を記念するシンポジウム「芸術に平和をつくることはできるのか」が、岐阜市司町のぎふメディアコスモスで開かれた。

武蔵野美術大の志田陽子教授（憲法）と岐阜市出身の劇作家、いずみ凜さん、揖斐川町出身の画家、久保田勝巳さんが登壇。あいち

トリエンナーレで、企画展「表現の不自由展・その後」が中止になった問題を受け、表現の自由をどう考えるかが議論になった。

志田教授は、展示について抗議が殺到した従軍慰安婦像を象徴した「平和の少女像」について「不快だ、嫌いだ、と思っつのは結構。それを他者とすれば、この少女像は他者を象徴しており、そつした他者とわれわ

「表現の不自由展・その後」などについて語る志田教授（右）といずみさん（左）17日、岐阜市司町のぎふメディアコスモスで



れが共存できるのかが問われている」と指摘。「この

問題を乗り切ることが、平和構築への一歩につながるのではないかと話した。

いずみさんも「表現の自由が侵されるのは、平和が侵される始まり。生で作品を見る機会を暴力で奪っており、残念で仕方ない。歴史を振り返ることは、未来をつくることにつながる」と訴えた。

久保田さんは「権力が芸術に手を入れてきている。自分たちで平和を守るんだという姿勢を大事にして、これからは正念場だ」と述べた。

（下條大樹）